

けがき

医療の原点は思いやり

2022
JULY

14
vol.



特集

診療実績と安心の支援体制で
地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定

診療実績と安心の支援体制で 地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定

中東遠地域のがん拠点病院としてがん診療機能をさらに充実

当院は、2022年4月1日付で厚生労働省から「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」に指定されました。12年前に中東遠医療圏唯一の「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、最善のがん医療の提供と種々の取組みを継続して行ってきました(図参照)。今では5大がん(肺・乳腺・胃・大腸・肝)を中心に、前立腺・腎臓などの泌尿器科領域のがんや子宮・卵巣などの婦人科がん、そして血液がん(悪性リンパ腫・白血病など)に至るまで、様々ながん種に対応できています。医師、看護師、薬剤師等の専門職のレベルアップや設備面での整備が進み、患者さんは中東遠医療圏に限らず、他の医療圏からも来院されています。

がん診療体制としては、専門職から成るチーム医療の下に、がん医療の3本柱である手術、がん薬物療法、放射線療法を効果的に組み合わせた集学的治療を実施しています。手術療法では創が小さく侵襲の少ない内視鏡外科手術が主流となっています。がん薬物療法の分野でも進歩はめざましく、がん細胞が持つ特定の分子(遺伝子やタンパク質)を標的として作用する分子標的薬が導入され、各種化学療法薬との併用で治療効果を上げています。放射線療法に関しては、がん組織へ高精度で効率よく放射線を照射する技術が治療に利用されています。当院では呼吸で移動する腫瘍にも追尾して狙い撃ちできる最新の治療装置を導入しています。

このような高度ながん治療を必要とする患者さんに対しては、身体症状に加えて、心理面でのサポートも欠かせないため、早い段階から専門職による緩和ケアチームが介入しています。そして、国民2人に1人ががんにかかる時代となり、がん相談の件数も増加しています。医療的な問題だけでなく、治療と仕事を両立させるための就労支援の相談にも応じています。「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」は、より高度ながん医療を提供するために望ましいとされる種々の要件を満たした上で、当該医療圏でがん診療の実績が最も優れていること、高度な放射線治療が実施可能なこと、がん相談支援体制や緩和ケアセンターの整備、医療安全への取組みが評価されたものです。

磐田市立総合病院 地域がん診療連携拠点病院としての取組み

1. がん診療機能

拠点病院としての医療提供
集学的治療の推進

標準的治療～高度医療への対応

- ①手術療法
- ②がん薬物療法
- ③放射線療法

遺伝カウンセリング外来

緩和ケアの推進

- ①緩和ケア研修会開催
- ②外来・入院診療(緩和ケアセンター)
- ③がん患者支援

在宅支援

がん地域連携バスの運用
介護施設との連携

2. 医療連携・がん相談

円滑な病診・病病連携
新規導入治療の広報
紹介率・逆紹介率アップ
がん相談の質向上

3. がん医療情報の発信

- ①病院ホームページの充実
- ②医療情報展示スペースの活用
- ③市民公開講座の定期開催
- ④出前健康講座の推進、など

4. がん予防・検診の推進

- ①柔軟な予約枠確保
- ②特定保健指導の推進
- ③オプション機能の充実

5. 医療の質の評価

院内がん登録データの利活用

がん登録データの院内掲示
国立がん研究センター
QI(診療の質指標)研究に参加

拠点病院間ベンチマークの利活用

がん拠点病院間の交流・評価



磐田市病院事業管理者兼病院長

すずき しゅうほち
鈴木 昌八

診療科、職種を超えたチームで患者さんを支える「がん診療センター」

副病院長兼がん診療センター長 とびた ただす 飛田 規

がん診療センターは当院のみならず地域の患者さんにとって最善のがん医療を提供できるよう、院内のがん診療をまとめるとともに診療所との連携や学校での教育といった地域内での企画調整、がん医療に関わるデータ集積と情報発信を行っています。

「がん相談支援センター」、「外来化学療法センター」、「放射線治療センター」、「緩和ケアセンター」、「がんゲノム診療センター」の5センターを中心に、すべての診療科、栄養部門、薬剤部門、リハビリテーション等とも連携して診療科や職種をこえたチーム体制で、がん診療を充実させるために継続的に取り組んでいます。

がん診療を牽引する地域における連携拠点病院としての役割は、今後、ますます大きくなることが予想されます。これからも「医療の原点は思いやり」の病院理念のもとに、患者さん中心の優しいがん医療の提供につとめ、患者さんやご家族の不安や悩みに応えられる診療体制をつくってまいります。

がん診療センター組織図

診療センター機能

がん診療センター

外来化学療法センター

放射線治療センター

緩和ケアセンター

がん相談支援センター

がんゲノム診療センター

遺伝相談室

遺伝相談室を新設

消化器内科科長兼遺伝相談室副室長 たきなみ まさき 瀧浪 将貴

「がんは遺伝ですか？」 がんになった方のご家族から、よく聞かれる質問です。遺伝に関わるがん（遺伝性腫瘍）は全体の約5～10%にすぎませんが、がんになりやすい遺伝子の変化が、親から子へ50%の確率で引き継がれるため、不安になる患者さん・ご家族も多いと思われます。当院は、病気と遺伝の関わりについて、一人ひとりに合った情報を提供する「遺伝カウンセリング外来」を、浜松医科大学・遺伝子診療部の協力で行っています。

近年、がん治療薬を選ぶための遺伝子検査で、遺伝性腫瘍に関わる結果が出るが増えています。このため、がん薬物療法専門医として、地域の方に遺伝性腫瘍の情報を提供できるよう努めています。また、遺伝性腫瘍は、「若年に発症」、「何回も発症」、「血縁者に同じようながんを発症」という特徴があります。遺伝カウンセリング外来での相談をご希望の方は、下記までご連絡ください。



浜松医科大学・遺伝子診療部の岩泉医師(右)



右から室長の大高医師、副室長の瀧浪医師、鈴木看護師、増井看護師

磐田市立総合病院 ☎0538-38-5000(代表)
「患者相談支援室」へ遺伝に関する相談とお伝えください。



緩和ケアセンター

がん診療の拠点として医療機関と連携し、地域の皆さんを支える

緩和ケアセンターは、地域がん診療連携拠点病院の当院が中心となり、磐田市とその周辺地域のがん診療の連携を強化し、地域住民の方に安心して療養生活を送っていただくため、2021年1月に設立されました。

「緩和」というと身体の痛みや心のつらさを和らげることと思われるかもしれませんが、実際の療養生活では暮らしの中の悩みや、ご家族やご遺族の心労など治療そのものに限らず様々な気付きがあります。特に退院後のご自宅や入所中の施設での生活の中で起こってくる困りごとについては、当院だけで継続的に把握することが難しく、かかりつけ医や入所施設等で各々対応していました。緩和ケアセンターは地域の病院、在宅療養支援診療所（訪問診療医）、訪問看護ステーションとの連携の核となり、入院、外来通院、在宅療養の間で切れ目のない情報共有や各職種のスキル向上を行っています。地域全体で患者さんを支えることができるよう尽力致します。

コロナ禍で医療施設同士の連携が途切れがちでしたが、緩和ケアセンター設立後はリモート会議を取り入れ、中東遠地域の施設同士の顔の見える関係を再構築しているところです。

また病気でないうちは、病院は自分には関係ない場所と思うかもしれませんが、自分や自分の大切な人が高齢となって身体が動きにくくなったり、治すことが難しい病気になったりした時に、何を最優先して生きたいか、誰に大事なことを相談したいか、どのような場所で療養したいか等を考えたり話し合ったりしておくことは意義あることです（Advanced care planning, ACP、日本語では『人生会議』と言われています）。緩和ケアセンターでは、これらに関する医療者の勉強会や地域住民の皆様への情報発信を行って参ります。



消化器外科科長兼緩和医療科科長
緩和ケアセンター長

ふかざわ たつこ
深澤 貴子

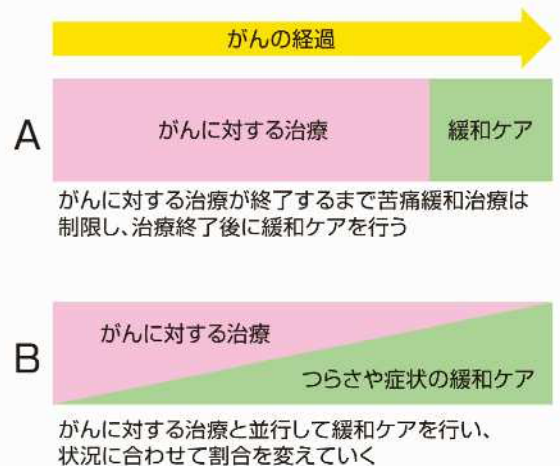
心と体のつらさ



WHO緩和ケアの考え方

がんの治療と緩和ケアの関係

(A:これまでの考え方 B:新しい考え方)



がんの治療段階から 緩和ケアチーム

緩和ケアチームは2008年に活動を開始したチーム医療の魁(さきがけ)です。当初から医師、看護師、臨床心理士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーの多職種で構成し、現在では作業療法士、管理栄養士、診療放射線技師を加えて30名となりました。様々な専門性で、患者さんの抱えるつらさに対応しています。

緩和は、痛みを和らげるだけではありません。患者さんの状態をよく聞き、チーム内の専門性を生かして、その都度、適切に対応します。緩和ケアチームが関わるのは人生の最終段階ばかりではありません。抗がん治療を頑張っているときにも治療が止まることなく続けられるようにお手伝いをしています。

多職種、他のチーム、がん相談支援センター、院外の医療者等と密接に連絡を取り合いながら、安心な療養生活ができるよう支援しています。



緩和ケアチーム
カンファレンスの
様子

チーム活動

心理士

つらい気持ちを傾聴し、心のつらさを和らげます

ケアマネジャー

在宅生活を整えます

ソーシャルワーカー

経済的な問題や退院・転院に向けた不安に対応します

理学療法士

作業療法士

言語聴覚士

無理のない動きや生活の工夫をアドバイスします



管理栄養士

食欲がないときなど、食事の工夫をアドバイスします

医師

がんの治療を行う担当の医師や、体のつらさの緩和を専門とする医師、気持ちのつらさの緩和を専門とする医師が対応します

薬剤師

薬の副作用への不安を和らげ、飲み方などをアドバイスします

看護師

体や心のつらさを和らげ、生活を支えます

“その人らしい生活”を送ることを目指して

がん性疼痛看護認定看護師 おおた かなえ 太田 果苗

がんの痛みは患者さんの半数から3分の2の方が感じると言われています。がんそのものだけでなく、治療やがんに関連する他のことが原因のこともあります。痛みがあると、身体や気持ちがつらいだけでなく、生活や治療に支障をきたすこともあります。痛みを我慢し、医師に遠慮して伝えるのを控える方もいらっしゃいます。

私は専門の教育を受け2009年、がん性疼痛看護認定看護師の資格を取得し、痛みなどのつらい症状を和らげる「緩和ケア」を提供しています。病名告知から治療方針相談などの医師との面談に同席し、患者さんやご家族の意思決定を支援したり、治療や療養生活を円滑に送ることができるよう関係部門と連携するなど、困り事に応じたがん医療全般のサポートをしています。

2人に1人はがんになる時代。うまくつきあって“その人らしい”生活を送ることができるように取り組んでいます。



プライバシーに配慮し、幅広い悩みに対応

なかがわ ひでお
緩和医療科部長兼がん相談支援センター長 **中澤 秀雄**

がん相談支援センターは、患者さんやご家族を幅広くサポートします。センター長（医師）、看護師、公認心理師、医療ソーシャルワーカー（MSW）が様々な相談に対応しています。

がん相談は名前を明かさなくても、対面でも電話でもかまいません。直通電話もありますのでご利用ください。当院に通院していなくても、本人でなくても、がんに関する相談ならどなたでも可能です。対面での相談は、プライバシーに配慮した相談室で行います。

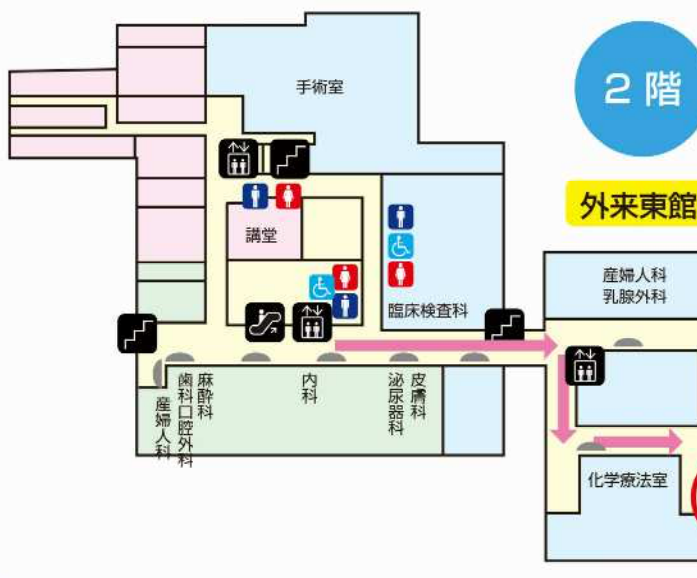


がん相談、患者さんのサポートいざれも、緩和ケアチームと密接に連携し、療養のお手伝いをしています。

患者さんやご家族へのサポートの一例を紹介します。

- がんサロンで患者さん同士が話せる（ピアサポートといいます）場の提供
- AYA世代サポート（妊孕性温存を含む）
- お仕事年金相談（就労支援）、働く世代への支援、治療と仕事の両立支援
- がんの家族がいる子どものサポート
- 遺伝相談・遺伝カウンセリングのサポート
- 乳がん患者会「陽だまり」への協力
- アピアランス・ケアの相談 等々

※AYA世代とは、思春期・若年成人のことで一般には15～39才を指します。この世代は進学・結婚・就職・子供の誕生など人生にとっても重要な時期です。



【電話相談】

☎0538-38-5286

（がん相談支援センター直通）

☎0538-38-5000（代表）

※はじめに「がんの相談」とお伝えください。

【受付時間】8時15分～17時00分

月曜日～金曜日

（祝日・年末年始（病院の休業日）を除く）

ここにあります

外来東館2階 65番窓口
がん相談支援センター

一人で悩まず相談を

がん相談支援センター 看護師 ^{すずき まゆみ} 鈴木 真弓

「なぜ私のがんになったのだろうか」「この先どうすればいいの」など、がんの診断や治療の過程で、多くの患者さんや家族は不安を感じ気持ちが動揺します。自分の中に閉じ込めず誰かに話してみましょ。身近な方に話すことが難しいときには、ぜひ「がん相談支援センター」をご利用ください。お話をうかがい、一緒に状況を整理し、向き合い方を考えるお手伝いをします。話すことで気持ちが少し楽になるかもしれません。

「主治医からの説明がよくわからない」「治療の副作用が心配」「痛みが続いてつらい」「家族としての関わり方」など様々な相談に対応していますので、まずはご相談ください。時には他の部門への橋渡しを行います。

これからも患者さんや家族の気持ちに寄り添い、その人にあった方法で一步一步進んでいけるようにサポートしていきます。



経済的、社会的な不安をサポート

がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー ^{さとう ともみ} 佐藤 友美

医療ソーシャルワーカー(MSW)は、医療機関での福祉の専門職で、当院のMSWは社会福祉士の国家資格を有しています。がんの治療を受けるうえで患者さんやご家族の抱える経済的、心理的、社会的問題の解決や社会復帰などの問題に対し、社会福祉の観点から支援します。

「がんの治療は高いって聞いたけど大丈夫かな」「仕事は辞めた方がいいのかな」「治療中、仕事が出来ないけど収入はどうなるの」等、患者さんやご家族のお話をうかがいながら一緒に考え、抱えている問題の解決に向けてお手伝いをします。

社会資源の有効活用について一緒に考え、安心してがん治療に専念出来るよう、また療養生活が送れるようお手伝いさせていただきます。



心のケアをしています

がん相談支援センター 公認心理師(臨床心理士) ^{やました あつこ} 山下 温子

がんと診断されると多くの人は、不安になったり、落ち込んだり、何も考えられなくなってしまいます。また、患者さんだけでなくご家族も、気持ちのつらさを抱えることがよくあります。そんなときは、ひとりで抱え込まないで公認心理師にご相談ください。

公認心理師は、患者さんやご家族からお話をうかがい、混乱する気持ちに寄り添い、問題を一緒に整理しながら、患者さんやご家族が自らの心の状態に気づき、その人らしく病気と付き合っていくお手伝いをさせていただきます。例えば「眠れない」「気持ちが落ち込む」「何も楽しくない」といったお気持ちに関することや「子どもにがんをどう伝えたらいいの」などの相談ができます。お気軽にご相談ください。



作ってみよう!

ハッピー レシピ

NO.14

1人前あたり

エネルギー 326kcal 脂質 1.3g

たんぱく質 16.2g 炭水化物 66.4g

食塩相当量 3.0g

材料 1人分

- ・そうめん … 70g
- ・トマトジュース(無塩) … 100ml
- ・濃縮めんつゆ … 大さじ2/3
- ・トマト … 小1/2個
- ・水菜 … 1束
- ・オクラ … 1本
- ・水煮ツナ … 1/2缶



トマトとツナの洋風そうめん

作り方

- ① そうめんをゆで、水でしめたあと、水を切る。
- ② トマトジュースと濃縮めんつゆを混ぜておく。
- ③ オクラはゆでたあと水で冷やし、トマト、水菜とともに食べやすい大きさに切る。
- ④ そうめんを皿に盛り付け、軽く水気を切ったツナと②③を乗せる。



当院管理栄養士

夏野菜の代表、トマトを使った洋風そうめん
暑い夏を乗り切りましょう!

病院から
お知らせ

診察の順番が近づいたことを メールでお知らせします!

QRコードサンプル ▶

2022年4月から、診察の順番が近づいたことをメールでお知らせできるようになりました。ご自身のスマートフォン等からメールアドレスを登録していただくと、診察の順番が近づいた際に登録されたメールアドレスにお知らせメールが送信されるシステムです。

QRコード読み取り後は、「決定」ボタンを数回押すのみの簡単な操作です。

是非、ご利用ください。

【注意事項】東館の診療科、本館の一部の診療科(眼科、小児科、産婦人科)は対象外です。
-迷惑メール設定等により、メール登録ができない場合があります。

メール呼出受付用QRコード

下記QRコードを読み取って
受付をお願いします。



下記QRコードからは
現在の待ち状況をご確認頂けます。



磐田市立総合病院

〒438-8550 静岡県磐田市大久保512番地3

TEL:0538-38-5000 FAX:0538-38-5050

<https://www.hospital.iwata.shizuoka.jp>



過去の「けやき」
はこちら



インスタグラム
はこちら



フェイスブック
はこちら